

適正管理でおいしい米を栽培

～令和2年産田植え開始～

当JA管内では、5月中旬から下旬にかけて田植えの作業が行われました。令和2年産の作付けは、青天の霹靂が805畝、まっしぐらが2458畝、つがるロマンは963畝の予定となっています。まっしぐらは、共同乾燥調製施設への受入品種となり、作付け面積は昨年より1744畝増加しました。

尾上地区の工藤憲男さんは5月15日、青天の霹靂の特別栽培米の田植えをしました。4月15日に播種（はしゅ）し、草丈15センチ程度、葉齢3葉程度と生育順調な苗を後継者の憲児さんが植えました。工藤憲男さんは「今年も基本を守って管理し、食味の良い青天の霹靂を栽培したい。消費者の皆さんには、我々生産者が丹精込めて栽培した米を楽しみに待っていてほしい」と話しました。

青森県特別栽培農産物認証制度での米生産は、化学肥料の使用を慣行の5割以下とし、有機肥料5割以上を施す。農薬使用回数（成分）は、「青天の霹靂」の栽培基準となっている慣行の1/2以内である10成分より少ない8成分で栽培します。



田植えをする工藤憲児さん

徹底した管理で高品質なぶどうを栽培

～JAぶどう生産販売対策協議会 栽培講習会～

ぶどう生産部会は6月5日、JAぶどう生産販売対策協議会が開いた栽培講習会に参加し、生産者約20人が今後の栽培管理について学びました。

県中南県民局地域農林水産部農業普及振興室の白戸真由美技師が講師を務め、生育状況と開花前後の栽培管理について説明。「発芽日と展葉日は平年に比べ遅めだが、6月現在の気温を見ると、スチューベンの開花予測日は6月10日頃、シャインマスカットは17日頃と平年より早くなると思われる。どちらも、商品性が高い果房を生産するために果穂整形を行う」と説明しました。また農薬散布については、畑に発生している病害虫をしっかり把握し、適切な防除を行うよう呼び掛けました。



ぶどうの栽培管理を確認する生産者

作付品種見直しで収量アップへ

～トマト栽培講習会～

尾上トマト部会（山口知治部会長）は5月28日、今年から作付する品種「りんか409」の栽培講習会を尾上青果センターで開き、部会員25人が出席しました。

中南地域県民局農業普及振興室の普及指導員が講師を務め、品種の特性や栽培の注意点について説明。「りんか409は根を弱らせると萎れが発生し軟果玉の発生につながる。萎れが発生した場合は、葉面散布を週3回行ってほしい」と呼びかけました。

山口部会長は「りんか409は、気候に適していることから他地区でも栽培されている品種。部会員には講習会で管理方法を学び、昨年以上の収量となるよう努めてほしい」と話しました。



普及指導員の説明を聞く部会員